





宮中の新嘗祭御儀

聖上陛下神嘉殿に御深更

二十三日宮中に於いて新嘗祭の御儀を行はせらる。聖上陛下は午後六時より二十四日の御時を過ぎる。...

伏見若宮殿下御渡鮮

海軍少尉候補生の御資格にて

今般艦の成績を以て海軍少尉候補生の御資格にて...

白兵戦開始せられん

日毎に烈し來れる間諜遂に

商船職員改選の遂行戦に日毎に烈し來れる間諜遂に...

御使を遣

李王世子より

朝鮮王世子より御使を遣はされしに...

新しい犯罪

この頃多い

社会の近きと云ふは、犯罪の増加を指す...

泥棒に一分

泥棒に一分

泥棒に一分の金を与へる...

井上七段逝

國書院に於いて

國書院に於いて井上七段の御葬儀を行はせらる...

熊本市火災

熊本市火災

熊本市火災の被害額は...

巨虎を斃す

虎狩の苦心

巨虎を斃す虎狩の苦心...

朝鮮短歌會

朝鮮短歌會

朝鮮短歌會の開催...

他人の名義

他人の名義

他人の名義を利用した犯罪...

被加害者共

被加害者共

被加害者共の被害状況...

怪しむべき

怪しむべき

怪しむべき事件の経緯...

黒焦の屍體

黒焦の屍體

黒焦の屍體の発見...

送別會

送別會

送別會の開催...

花婿に

花婿に

花婿にまつての物語...

喜家の女將

喜家の女將

喜家の女將の活躍...

花婿に

花婿に

花婿にまつての物語...

商況

商況

商況の概況...

大阪株式特電

大阪株式特電

大阪株式特電の内容...

東京米特電

東京米特電

東京米特電の内容...

大阪米特電

大阪米特電

大阪米特電の内容...

下關米特電

下關米特電

下關米特電の内容...

正米急騰

正米急騰

正米急騰の理由...

釜山穀物

釜山穀物

釜山穀物の相場...

仁川米

仁川米

仁川米の相場...

仁川米

仁川米

仁川米の相場...

仁川米

仁川米

仁川米の相場...

仁川米

仁川米

仁川米の相場...

仁川米

仁川米

仁川米の相場...







いちばん  
一番よくきく

アレ止<sup>どめ</sup>  
は  
クラブ洗粉<sup>わすひこ</sup>  
本店謹製の

美<sup>が</sup>身<sup>み</sup>  
クラブ  
クリーム

此のクラブ美身クリームは素顔の  
美を増し白粉の附を良くする品質  
第一のアレ、日ヤケ止にして呉くも

皇后宮職御用品

たるの光榮を辱うしつゝあり。



刊朝日五十二  
(頁八てせ併刊夕朝)

たため八年九月、海津津、坪間に手摺  
△帝國陸軍は、軍費最速の△逸次改定とされたので  
たて、輕鐵道を建設した、之が北引に「つづ」併設に要し、早晩  
於ける鐵道の監視である、後引に「つづ」鐵道の之に代らねばならぬ  
鐵道の建設を、軍費會費削減政策に「つづ」並し當然の趨勢であつた、  
南關に延長開設し、東京に對策の要、明治十一年の六月、統帥府鐵道

城道屬て先づ其の  
 大正元年九月に五町敷設線有  
 △清津會盛間 線路の敷設  
 をなし茲に成線、前元山永興  
 と共に大正三年度以降五箇年の  
 續工費として第三十一議會の協  
 を得たのである、總務府の鐵道

元成を關するさうである

▽**費つた建設費**

河津會家間の河會線五十八哩の  
建設費は豫計を要したかと云ふに  
正三年正月一議會で協賛を得た

戸數僅に百餘の一漁村に  
 かつたが戰後に至り逐年内埔  
 農來多く明治四十年九月理臺  
 置かれ翌年四月開港場となつ  
 ら繁華信譽の盛又を呈し以て  
 に至つてゐる而して此地輸入

朝鮮に位置してゐる、線路は、  
 奇跡突死たる間七箇のトン  
 出入してゐる、全百里は荒  
 北麓に位置し、海拔一千六百  
 地である、豊山は倉奉川の  
 位置し内地人の戸数三十  
 中島は倉奉山二町

田邊の  
それを  
田邊の  
八の商  
上流に  
昇して  
のへは  
流

清會鐵道全通

起工以來滿三年工費七百六十萬圓を投じて建設したる所謂清會鐵道五十八哩は二十五日を以て開通し其の經營に當る滿鐵京城管理局は會館車站樞樞に於て盛大なる開通式を舉行せんとす

鐵道圖上の清會線を見れば北韓國境の一方鐵道に過ぎざるも、本線が孩子となり荷に陸に延長すべき其の將來を観察すれば、吉會線は國際鐵道として極めて重要な使命を有し居れり、乃ち本線全通の今日差し向く問題となり來るは吉會鐵道なるべし、吉會鐵道より日露の職權日清條約に基き日支合體の下に敷設をなす協定成立せる今の際にして本鐵道は清會線開通の今日に至る各種の情勢より觀察し遠からず何等かの形式により其の實現を見る事は窺知するに餘がらず、然るに本線は吉會線を通過して吉長線と連絡上而して長春にて歐亞大幹線に連接すべし、更に清津より敦復及び新義鎮には通信局にて大正七年度より日本海鐵道の定期命令航路を開かり日本海鐵道の如く（又經綏中府にて決定せるもの）如く交綫橋に於て諸國間の北朝鮮縱貫線より京沈線に連絡するに至らば膠州灣にも、鐵道の開通が地方の開拓發展に密著する事の甚大なるは言を俟たず、思ふに本線の通過地點を概して陂角不毛の地に於て產するの價值は鑛業を除く外多く期待し難きも、對岸黑龍江流域の開闢並に農林水産貿易及同地方の交通上便利を興ふる事多きは蓋し測り難きものであるべし、吾人けり明正式舉行之當日深く鐵道當局の勞を多とする也。

清津港灣の改良策如何

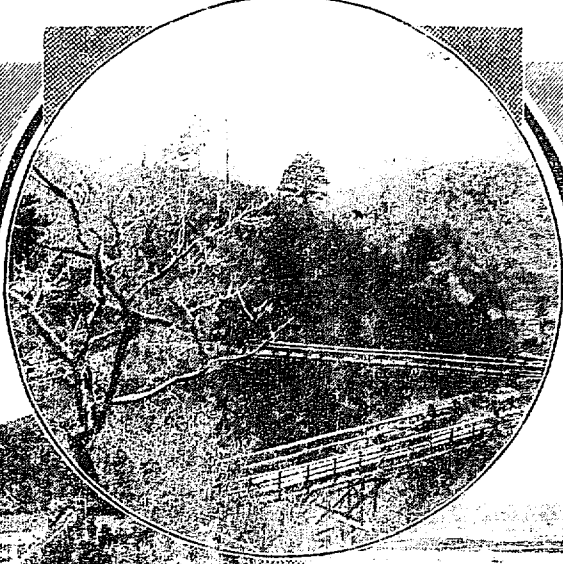
久保要藏氏談

滿鐵京城管理局長

成鐵線の北部たる清津會館は、のち  
道五十八哩は昨年十一月五日清  
津會館三十二哩二の駅舎を見更  
にける九月二十一日奉天會館十  
哩五の駅舎を開始し下つて十一  
月廿五日奉山會館十五哩四の開通  
となり全線の營業開始を見る事と  
なつた、總當府が巨費を投じ北邊  
の一港たる清津から饒みたる山嶺  
を通過するに當り、先づ對策した  
るは、鐵道の敷設は十分に五つと鐵  
道せらるゝ、更に又吉會館が何等か  
の形式によつて敷設され滿蒙方面  
と北鮮の連絡が假りについたとし  
海軍運輸物資の一部が清津港に  
よつて吞吐せらるゝに俾はなれ  
清津港の設備をそれに伴はなれ  
は、高麗點點を映ぐるの又片幅のや  
うなもの云はねにたらぬ、寧ろ  
清津會館と元山方面を連絡する北

開通した清會鐵道

◇**「谿谷を過ぎ」山を買い、五十八哩**  
**建設の過程**  
 過程を回顧するも徒爾でなからる



品輸送に供して來たが、四十年、理局は初めて咸南北に亘る鐵道四月以降民間の請負經營に附し傍路の調査をしたが、其の結果咸南一節貨客運輸の用に供して來た其後此の輕鐵は北鮮に於ける唯一の交通機關として貢獻する所少なかつたが、遂に軍用一時的併せ延長三百七十七哩一分の所

蘭六七月間に過ぎない加ふる  
 沿線は暖水毛の地多きを爲概し  
 △人煙稀薄 なるのみなら  
 居住する人の多くは労働を嫌忌す  
 の傾向あり故に大抵の雇傭は各  
 貨人の舊しき若殿さの所で役方  
 を盡し極力地方労働者の出役方  
 を請すると共に遠く京釜京元沿  
 の熟練な職工を雇ひ入れ、且つ  
 種々の技能を要する職工には支那  
 の労働者を以て之れを補ふた  
 の工事を遂行するに努めた、又  
 現は工事を五工區に分ち順次請  
 け附して施工し、路盤並に軌條  
 に伴ひなり土工、橋梁並に軌條  
 敷設を施した、而して沿會線  
 建造物は武蔵室登坪間の觀本線  
 除く外凡て  
 △永久的の構造 となし  
 るが停車場は諸設備等に至り  
 は差し當り從開始に差支へな

△再明時代 十三萬一千  
費日中の主なるものは陸路費  
九十萬圓を占むるものと推定  
す萬圓の道費の百二十萬圓之  
を低減費の八十三萬圓に算  
である。

▽沿線の各驛  
海參崴は全區間殆んど山嶽又  
陸山山谷を貫き沿線では鐵山  
來を豫想する外農産物の生産  
乏しいけれど豆滿江の一葉帯  
越ゆるの直ちに買取及び押  
源、接線し經濟上の價值は少  
ない。沿線各驛の概況を少し  
して見よう

△清津驛 清津は朝鮮鮮  
部に位置する不凍港で浦項へ  
五連鉄道、七百八十五連、元山  
百五十五連、陽城鐵道、及び

二地方に運送されるものな  
從は會社に於て關照地に

十餘のなれば、一は四十八錢  
を以て、餘約三錢の一に對する

○次に貨物に於て鐵道開通  
津南線、順安、貨車輕便

八 津南線、順安、貨車輕便  
百 四國二級安部馬十二十錢

位 九錢安部馬十二十錢  
車十、圖八十錢なりしが、

貨は順般、一級品、圖九十  
疾二級品、圖三十錢、三初

將圖四十七錢なるを以て從來  
は其比すれば續五分の一の

をに過ぎ斯くの如く運賃低  
富果は自然消線及び與地物資

當量多からしめ且つ從  
記の關係上にも合し、

生産せられざるものも、生  
に至るべし即ち現在豆蒲江

東より江口に流下され江口よ  
廿二地方に運送されるものな  
從は會社に於て關照地に

[illegible]

現在、  
は老翁  
と接し  
て、  
いあり  
に收め  
に於け  
西は老  
は百草  
道は經  
と雖も  
ざる結  
壓迫し  
維持す  
貸低減  
の産業  
の短縮  
あり  
を問非  
ば二日  
でし間  
て用を  
たれば

△三十二 四二を諸侯し本月廿一日に荊楚豐山開十里五盛を開始となり今回全通を見たに其の明まで七月三十一日漢が朝鮮に於ける國有總邊境線が武へ受くるに漢會社の經費も又引の手に移つたのである

▽工事竣る迄一  
海濱から會社までの鐵路は其間出陣陣五を除く三總城川會社所△兩流域に沿つてゐる二三の宿著しいものを除くこと事は難くないであつたらしい、然し荊楚全千里間は茂田嶺の峻嶒、嶺より山脈連地勢急峻線路の竟は容易でない、從つて土工隧道は事少ならず殊に寒氣猛烈土師の候には掘りなす日三十五度には事も稀れならず日三結末期はめて永く然も夏時の雨期は降雨なからず一年を連じ作業の期間

A black and white photograph showing a person riding a horse across a field. The rider is positioned in the lower right foreground, facing left. The horse is dark-colored and appears to be in motion. The background consists of a line of trees and a bright, possibly overexposed sky. The image has a grainy, high-contrast quality.

[illegible][illegible]

には本  
利を享  
は之れ  
るべき  
昨年の  
萬國內  
人は約

もは安  
くは  
ては  
に  
の  
へ  
大  
の  
事  
の  
事  
つ  
速

物資

大正五年九月に三河鐵道會社  
 鐵道局を先づ其の  
 △清津會寧間 線路の運賃  
 をなし、鐵に成鐵線、都立山、永興、  
 と共に大正三年度以降五箇年の  
 鐵工事として第三十三議會の協定  
 を得たのである。總務部の鐵道課  
 は大正三年四月進んで本路開工  
 課に委し、六月に於て本路開工  
 鐵道事務所を設け、十月以降清津  
 間より順次に開闢された。四年の  
 月、所有の土地に會し、既設設備を  
 整理、改良するにあたり、其の水害の  
 勢に鑑み、線路及び設備の一部を移  
 する。鐵工事に上を受けた困難と、障  
 は少なく、かつたが、併後、幸ひに  
 設工事に順調に進捗し、工事の最  
 に作らむ。大正五年十一月五日、清

完成を期するやである  
 には諸君の盛工事を施しし之  
 費は幾許か要したか云々上  
 三、四年計 監會 監役を得  
 願ひて建設は、大正二年から  
 五箇年 に左 總額 千  
 七百七萬圓 事務費 車輛費  
 二二萬一千元 水電費 至  
 十四哩八分、津浦、會家  
 五十八哩六分の道路を建設す  
 である。而して津浦、會家  
 鐵路は、車務費、車輛費、給  
 七百九十四萬三千圓であるが  
 の全通までに支出した金額は  
 算に隨する見地に、額を併算し  
 日五十八萬六千圓外に  
 日五十八萬六千圓外に

なる、本港は日露戰役當時  
 人戶數僅に百餘の一進歩  
 かつたが戰後に至り逐年内  
 港多きを以て明治四十年  
 九九月現數  
 概され翌年四月間調査  
 に至つて倍の盛衰を呈し  
 大底に於ける而て此地華人  
 の大體は内地品其の大半は  
 方面に運送せらるる地物  
 を見る時本港の將來係  
 及北北北北の關係在  
 人口工人内地人は約三千  
 銀行は、華商を経て銀  
 手振式銀貨を過してゐる  
 七  
 野驛頭に展開してゐる、内地  
 數十である、富興は城城

朝鮮に位置してゐる、線路は茂  
奇嶺突九たる間七箇のトン  
出としてゐる、今百里は茂  
北麓に位置し海拔、千六百  
地である、豊山は金海川の  
内陸の戸數三千五百餘  
位、中結は會豐縣南立正  
未練皮及乾乾の兩地  
がある

△會豐縣 會豐は平壤  
咸中邊の地で、開近江  
界間に面し北滿洲の傍  
此より間島縣より鐵路  
は十三里屬于街、は十八里  
の茂山邑は會豐より鐵路  
間島縣に於ける商業上之  
とめてゐる今、鐵道總  
結は本線の終點とな  
に於ける最、重要な位置  
に至つた、骨子に於て

前通の  
 土を  
 山麓の  
 八の高  
 上流に  
 算して  
 の八流  
 とて各  
 正の海  
 路多く  
 井村に  
 又も流  
 八里二  
 妻の地  
 の上を  
 國接  
 占むる  
 前通の



三十一 催に付東萊著蓬萊館に投宿せし

大田 江景、公州  
 論山、鐵原、烏致院  
 貴親切に御取扱可申候  
 計り、洪城を基點となし  
 足致候  
 大安織居自働車部  
 萬圓  
 城  
 侯湖農工銀行  
 配人、遠山  
 間能に付東萊省東萊節に投消せし







第七十六回 大阪霞の家主

門前から聞こにて来た

何かが物語りてござります  
 南南  
 折角のやが強て師は、夜中  
 云ひ、他國の武士、對面な思  
 るよらぬわ  
 舞臺は心奪て去つた  
 眼前には初瀬と嘉平が互に  
 を合つて居る

江戸城  
 田代千

に達せぬもの事だ。それに耳に  
の氣のないやうに常に拭いて居る  
やうにして、事が厭だ、書しヒ  
を切れた。

◆ヘブラ 氏の「聖と云ふ」  
の「聖」は、聖から取つて、聖  
つけないで、聖に聖を聖と云ふ  
「油」を聖に聖に聖に聖に  
のです、アカサレの聖にはビ  
ブ氏の聖と云ふのがある、  
その聖から聖にして聖の聖  
にして聖に聖に聖の聖、  
ビブアカサレの聖に聖に聖に聖に

[illegible]

卷之四  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

大正六年十二月一日京  
城商業會議所評議員選  
舉會行其時因場所  
選舉之不便評議員數  
目不一

[illegible]

耳鼻咽喉科専門  
齒科専門 東京市



頭分  
二並

管 肥料部  
無害各種、乾血、蹄粉、  
星印配合肥料、細工用地骨、  
細工用蹄粉各種膠及膠原料

料醫學士 福田實二  
 けには 大森支店  
 角倉支店  
 赤ホマー  
 衣を飾る 高等練香油 コスメチック  
 婦人は申すに及ばず 到る處で高評  
 京坂東大門外紅菱町  
 朝鮮肥料製造所  
 電話二六三五番

**銚子**  
鑄鐵玉井  
他出九割二枚五十八分

**アカギレ**

手汗に水気の無い様にする  
秋から冬にかけてヒビやアカギレで悩まされる人が多い。元來ヒビとアカギレとは同じ性質のものとして、輕症がヒビで重症がアカギレなのに入院願(意)(療養九帖進)

**皮膚病**  
疥癬毒病  
市品川城京一話電

**皮**

微毒病

**數**

うにしないといふ通りが運れます

炭 浮 田 持

二人で来た炭竈に庭をのりて  
炭割る下女の親計から来る  
炭つぎの旗張にいてゐるなり  
炭割の船頭の行先の飯屋知々

新刊 紹介

●ホト、グス(第二十二) 和歌集 一 古本  
用紙の異なる、紙の質、色、厚さ、文字、  
と神の異なる、見る、ある、ある、ある、  
と異なる、見る、ある、ある、ある、  
と異なる、見る、ある、ある、ある、

[illegible][illegible][illegible]

恩納 八幡 年金店代理店  
 大分県 八幡 年金店代理店  
 大分県 八幡 年金店代理店

**品目**  
 化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼、牛脂、椰子油、鯨油、其他抽脂類、苛性曹達、既曹達

**昔**  
 効能  
 大日本

**今**

京坂國町一四番地  
朝日石鹼製造所

電話二五九六三四番  
電報口座東京〇四四〇番

大阪高津

其の他諸君を下さる  
べし

伊賀長瀬

**科** 生機機器 一丁明院  
 日曜祭日午後二時迄  
 です、病弱は蓄熱と同じやうに温  
 かい所から急に寒い所に行つたり  
 冷めて居たのを  
**◇急に暖** めたりすると起り  
 ますが病弱は蓄熱とは違つて外氣  
 の刺激で一種の濕疹を起し痒いの  
 で掻くと血が滲み出て出處しいの  
 は数日が出て來るのです、捨て  
 り置いても小瘡となれば自然に癒  
 へるとは云へ、翌日から膿血が入る

[illegible]

適度の人がおれば、自分の地方の  
ない仕事をやる人、役を司る人  
をいふ。人は、大抵、二面三  
面から見ては、よく手落ちのない  
方法である。

「善行」可き「大衆業」  
業付「九」も「四」も「五」も  
但し尤も感無念を以て聞こころ  
半生「樂期」に居て幾多の「自」  
者か敬重なる「匠師」の下に研究製  
されたもので、「諸君の高貴な意」  
をせる「真匠持」であつて、有  
本への如きは装束並に儀式、眼

雜木 原木 板類  
 本明 雜木店  
 恩給 年金 即時  
 示 一 元 新 創 者  
 廣興商會  
 恩給 年金 即時  
 示 一 元 新 創 者  
 廣興商會  
 恩給 年金 即時  
 示 一 元 新 創 者  
 廣興商會

最新刊

[illegible]

生儀昨秋來京城長公  
て痔疾治療に従事  
漫遊引續き東上中  
に依り再び京城中に  
此段謹告候也

○痔疾専門

○入院隨意

開院

廣 告

谷川町安東病院に於  
て本年四月以來滿洲  
の患者各位の勸告  
及び診療に従事可仕  
なり。おぢやう。だてこ。さけ  
はしりぢや。おげぢ。外一般

(三) 合 手 碁 圍

氏郎太清尾松 先 後初 氏壽平 山 三

是十六五十のヨロリよ(一十四二のハズ)

ツブレをコカフサレヌリサトヘセニハナ

然に全愈する消渴症は、四月を要した。トテ  
 れた安全な眼病藥であつて、トテラ  
 ホーム、はりりめ、腫痛、たぐれ  
 日一切の眼病に著しき特効がある  
 國飲酒家、頭痛、便秘症、飲酒家は  
 極る可き腸失調、肝風等の多くは着  
 け易い。それと飲酒家の多くは着  
 合せたが、持薬に健腦丸を用ひて  
 のる健腦丸を常用すると、頭痛、便  
 秘、不眠の諸症を治し頭腦を明瞭  
 しに記憶力を増進する特効がある  
 速に用ひ給へ。  
 大正七年二月二號分一千三百三十三號  
 八分七厘二毫の二號分一千三百三十三號  
 西曆一九一八年三月六日發行  
 東京市東區本町四丁目九番地  
 東洋海軍部 丹平商店

○ 銃砲火藥 增子銃砲店 704  
 京坂本町三丁目電話二〇九三番

○ 防藥 實用的スリッパ 作所  
 川邊 各種 野製 作所  
 京坂本町一丁目電話四六六番

○ 銃砲火藥 燐具 63  
 京坂本町三丁目電話三〇九三番  
 支店 大田 五州

○ 乳母入用  
 御星の方は電話一六三六  
 番(御星越被下度)

一宮 新式又部 三  
 二宮 新式又部 三  
 三宮 新式又部 三  
 四宮 新式又部 三  
 五宮 新式又部 三  
 六宮 新式又部 三  
 七宮 新式又部 三  
 八宮 新式又部 三  
 九宮 新式又部 三  
 十宮 新式又部 三  
 十一宮 新式又部 三  
 十二宮 新式又部 三  
 十三宮 新式又部 三  
 十四宮 新式又部 三  
 十五宮 新式又部 三  
 十六宮 新式又部 三  
 十七宮 新式又部 三  
 十八宮 新式又部 三  
 十九宮 新式又部 三  
 二十宮 新式又部 三

**大原有田** 大阪府  
京都府 六門外 御橋通  
**大阪三商會** 神戶本部  
東京支店 三丁目 大阪支店  
釜山支店 二丁目 大阪支店  
先山本町三丁目 大阪支店  
他の諸店に販賣を不許

京城明治町二丁目  
元朝鮮實業會社 電話  
院長 久枝

良品の藥品  
SUNSHINE



三十二番地  
三十二番  
肛門病院  
久枝 秀喜  
と寶藥が通つて居る並  
に經代店です。から  
由留がと安いでや  
京橋本町二丁目角  
古城寶化堂  
電話1033番